

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000515), 法人名 (特定非営利活動法人 生きがいセンター), 事業所名 (グループホーム生きがい(1ユニット)), 所在地 (小樽市朝里川温泉2丁目694番3号), 自己評価作成日 (平成29年1月18日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の表情が変化する自然豊かな環境に位置しています。ホームの中庭には家庭菜園があり、ご利用者様と一緒に花や野菜を育て、成長を眺めたり、草むしりをしながら収穫などを楽しんでいます。のんびりとした家庭的な雰囲気の中でご利用者様一人一人が楽しく安心した生活を送って頂けるように努め、近隣の子供会、地域の方々とのイベント・季節行事など、交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000515-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年2月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市の東南部にある朝里川温泉郷の入口、蛸が生息する自然豊かな地域に位置している。近隣には、高齢者複合施設やケアハウス、敷地内にも3か所のグループホームがあり、地域が高齢者の街にもなっている。ケアにおいては「明るく楽しく・ゆっくり皆と一緒に・自然の流れの中の生活・見守りケア心のケア・自身の回復」の五つのポリシーを大切に利用者本位のケアを実践している。町内会も友好的で、町内の催しものなどに参加するとともに、ホームの味覚祭には地域の人々が訪れている。高校生の訪問・指圧・歌謡曲・ギター演奏・コーラスなどボランティアの来訪も盛んである。町内の子供会と協賛でクリスマス会や雪明かりのオブジェづくり、小学校の運動会・学習発表会見学など地域との相互の交流を積極的に行っている。ホームでは、同じ敷地内の他のグループホームの人達と一緒に花壇の花植え、菜園でトマト、大根など多数の野菜を栽培したり、戸外でお茶会など楽しみながら利用者の中で日常的に交流が行われている。地域との繋がりが深く、家庭的な雰囲気の中で生きがいを持って生活を営んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っている。玄関や休憩室に貼り、いつでも確認出来るようにしている。定期的に社内研修でも取り入れ、確認し実践出来る様になっています。	開設時からの運営理念の他、地域密着を目指した理念、ポリシーを全職員で制定し、目につきやすい所に掲示している。個々のケアを検討する時の拠り所として、また、法人研修で年間3回ほど取り入れ確認し、常に意識しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供達と行事を行っている。クリスマス会や雪明りのオブジェ作り、小学校の運動会や学習発表会にも参加させていただいています。ホームの夏祭りにはご家族や地域の方々も参加しています。	町内会に加入し、町内の催しもの、地域の盆踊りなどに参加するとともに、ホームの味覚祭には地域の人が訪れている。ボランティアの定期的な来訪がある。町内の子供会と協賛でクリスマス会や雪明かりのオブジェ作り、小学校の学習発表会見学など、地域との相互の交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や避難訓練などの機会を生かして包括支援センター、消防署、警察署などと意見交換をしている。地域交流の際には認知症の方への理解や接し方、支援方法お話し、正しく理解して頂ける様努める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催しています。ご家族様や地域の方々との話し合いの場を設け、生活状況、意見交換を行いサービス向上に生かしています。自己評価、外部評価についても報告をしています。	町内会・包括支援センター・民生委員・利用者、議題により消防署職員・警察官等の出席のもと、定期的開催している。運営状況の報告、認知症や感染症など時々の話題をもとに資料を配布して話し合うなど、意見・情報交換の場として活用している。	定例に推進会議が開催され、意見や情報交換が活発に行われているが、数年来家族の参加が得られない様で、議事録の送付とともに参加への呼びかけの工夫を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に必要に応じて相談し、アドバイスを受けています。市などが主催する勉強会にも参加し情報収集に努めています。	市に提出する報告や資料は担当者へ直接持参するなど、信頼関係を深めるよう取り組んでいる。グループホーム連絡協議会に参加し情報交換をしたり、相互訪問研修会で研修をしている。生活保護の受給者には生活支援課と連携をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会や社内研修により学ぶ機会を持っている。個々の意識を高め、身体拘束のないケアに努めています。現在、玄関の鍵については、外からは自動で開くが中からは遠隔操作で開く形になっています。外出の意向があれば一緒に付き添い外出しています。	身体拘束廃止推進委員会を年4回開催し、内部研修で身体拘束のないケア、虐待防止について職員の理解を深めている。身体拘束に該当する具体的な行為、特に言葉による抑制についても職員同士で注意しながらケアの実践にあたっている。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、定期的に社内研修を行い職員一人一人が熟知出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて繰り返し学ぶ機会を持ったが活用には至っていない、今後も制度の理解に努め支援に結び付けていけるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様やご家族に十分に説明を行い、契約後、不安や疑問点がないか確認しています。解約時にも不安の軽減に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や不満・苦情、思っている事があれば面会時や都度伺うようにしています。又、玄関に意見箱を設置したり、面会簿に記入欄を作っています。	利用者への意識的な声掛け、家族訪問時や電話では、利用者の状況を伝え意見を引き出すよう心掛けている。玄関に意見箱を設置し、面会簿に要望を書く欄を設けている。年4回のお便りと2か月に1回の手紙には利用者の様子を書き添えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見や提案を聞いたり、定期的にフロア会議を開き意見交換の場を設けています。	管理者は、毎月のフロア会議や毎日の申し送りで、職員から意見を述べやすい雰囲気の中で意見を引き出すように努めている。職員から身体状況に合わせたケアの方法や効率的な物品の配置などの提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	段階に応じて社外研修で学ぶ機会を設けています。又、資格取得についても勧めており、社員登用の制度もあります。職員がやりがいをもち働ける職場環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にも職員が参加出来るようにしています。資格取得についても勧めており、有資格者が勉強会を用いたりする支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と相互訪問研修を行い、他社の運営方法やサービスについて学び、サービスの向上を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入所前には必ずご本人と面談を行い、心配事や要望等の確認を行う。また、ホームの見学を進めており、ご本人が納得・安心して入所出来るように支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前、ご家族とお話する機会を持ち、意見や要望を確認する。話を十分に聞き取り、不安を解消して頂き信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の話聞くことで必要とされるサービスの把握に努める。また、早急な対応が必要な場合は出来る限り添えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様に掃除や食事の準備・片づけ等手伝って頂いています。人生の先輩として意見をお伺いしたり、一緒に考えたり、よりよい関係を築けるように心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にゆっくり過ごして頂ける様に心がけている。また、日々の生活に関することは面会時や電話にてご家族に相談し、意見を取り入れながらより良い生活を送って頂けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の元、入所前からの病院や理容室に通えるように支援している。また、友人・知人・馴染みの方との電話や面会を通じて継続出来る様に努めています。	敷地内に3か所のグループホームがあり、利用者間で日常的に交流が行われている。友人が来訪の時は、居室や食堂のソファなどでゆっくり話してもらえるよう配慮している。馴染みの美容院・寺院へのお参りなどは家族と協力し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格や相性などを把握し、会話の橋渡しをしています。また、関係がうまくいくように配慮し、支えあえる生活が送れる様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何か心配事や相談事がある場合はいつでも応じる事をご家族にお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との日々の関わりの中から、思いや希望を親身に聞くように努めています。意思疎通が難しい場合はご家族のご協力を得るようにしています。	殆どの利用者が日常の会話ができ、他に家族からの聞き取りなどで利用者の希望や意向を把握し、毎日の介護記録の特記事項に書き留めている。日々のコミュニケーションを大切に職員間で共有し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人やご家族から生活歴や趣味などの情報を伺う。それを基により良いサービス提供が送れる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の生活リズムを把握し、出来る事・出来ない事を日々の生活の中で発見していくように努めている。職員間で記録に記載し情報を伝達・共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、ご利用者様の視点に立った具体的なものを3ヶ月に1回職員同士で話し合い、見直し、個々にあった計画作成をしています。	毎月のフロア会議で職員同士で検討し、職員の意見、本人の希望や家族の意向、医師の指導を盛り込んだ介護計画をケアマネージャーが作成している。3か月毎にモニタリング、介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や具体的な言葉を個別に記録しています。情報を共有し担当者間での話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の通院や送迎など、ご家族が同行できない場合は、付き添い介助などを柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・包括・消防・小学校や子供会・地域のボランティアやご家族様の協力を頂き、安全で豊かな暮らしができる様に支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの病院を継続するか、協力病院へ移行するかはご本人様やご家族様に決めて頂き希望に添った受診・往診が行える様に努めています。	専門のかかりつけ医の受診は家族対応となっているが、臨時の受診は職員が同行受診をし、受診に関する情報は家族・職員間で共有している。協力医療機関の受診には職員が同行支援している。歯科は月2回訪問診療が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の体調が悪い時や心配事がある時は協力病院の看護師に相談し、助言を頂いたり、受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者様に関する必要な情報を提供しています。定期的にご家族や医療機関と連絡を取り、病状の把握をしています。また、速やかな退院支援が行える様、対応に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時にご本人様やご家族様に話をしています。状態の悪化が予想される場合は早い段階で主治医やご家族様と十分に話し合い、方針を決めています。	契約時に、重度化した時の対応についてホームとしてできることを口頭で説明している。状態の悪化が予想される場合、早い段階から医療機関・家族と話し合い方針を決めている。重度化や終末期に受けた医療機関との連携体制は確保されていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時に適切な対応が出来る様に社内研修に取り入れています。また、夜勤時の緊急対応についてはマニュアルなどを整備し周知徹底しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を敷地内2つのグループホームと連携して行っています。夜間想定した訓練も実施しています。地域の方々にも参加頂き、ご利用者様の誘導・見守りをお願いしています。	消防署立会いのもと夜間想定を含め年2回の避難訓練を行っており、運営推進会議メンバーの参加や地域の方々も参加し協力を得ている。緊急時マニュアル、非常時連絡網の整備、備蓄も行っている。	自然災害が多く発生している現状のなか、火災以外にも様々な災害を想定し、防災に関する対応策を図り、自主訓練に取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、尊敬の念を忘れないよう、教えて頂く立場と考え接するように努めています。	法人・内部研修で接遇について取り上げ、声かけや態度など、利用者の誇りを損なわないよう、職員はお互いに注意し合いケアに臨んでいる。個人情報事は事務室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で決定出来るよう選択して頂いたり、分かりやすくお伝えしたり、問いかけたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活はご利用者様のペースを大切に、個々の性格・体調・状況に合わせ対応しています。また、ご本人様やご家族様の希望を聞き取りより良い支援に繋がるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装やその人らしい服装や髪型が出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材を代替したり、食べ易い形状にしています。食事の際はご利用者様の間に職員が座り、様子を見守っています。準備や片付けも一緒に行っています。	食材を業者に発注する際は、食材係が利用者の希望を聞いている。嫌いな食べ物を希望により替えるなど、その人に合わせた工夫を行っている。咀嚼・嚥下状態に応じた調理法、菜園で採れたての野菜を加えるなど、食事が楽しみとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事・水分量を記録し、体調や状況に合わせて食事形態を変え、摂取しやすいように配慮した支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨をして頂いています。不十分な所にはお声掛けや介助にて行き清潔を保っています。夜間は義歯をお預かりし、洗浄剤		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や声掛けが必要な方にはさり気なくサポートしています。失禁による不快感を軽減し、出来る限りトイレにて気持ちよく排泄出来る様、支援しています。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、適切な声掛けにより、トイレでの排泄を促している。できるだけ布パンツになるよう、日中と夜間の切り替えなど、オムツやリハビリパンツの使用を減らすよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に水分を摂って頂き、毎日の体操を日課にしています。個々の状況に応じ、対応しています。便秘の場合は主治医へ相談し下剤を処方して頂くこともあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やご本人様の気分考慮し時間や順番など希望に添うよう支援しています。また、シャワー浴なども行い個々にあった入浴を頂いています。	週2回以上の入浴を基本とし、曜日や湯温など利用者の好みに合わせ対応している。入浴を嫌がる人には無理強いせず、会話を交えながら入浴が楽しみとなるよう工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や体調を把握し、安心してゆっくり休んで頂ける様に支援しています。睡眠状態・安全を確認する為、定期的に巡視を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて用法・用量・副作用を把握しています。服用の際は職員2名で確認をし、間違いの無いよう注意している。服用後の変化にも気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様やご家族様から生活歴や楽しみ事など伺い個々に合わせた楽しみが増えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、ご家族様とドライブや外食へ行かれる事もあります。お花見や紅葉狩りなど、外出レクリエーションや近隣施設への行事などに参加して頂いています。	同じ敷地内の他のグループホームの人と一緒に花壇に花を植えたり、家庭菜園でのトマト、大根など多数の野菜の生育を楽しみながら日常的に外気に触れるよう支援している。近隣の朝里公園や朝里ダム紅葉狩り、花見や春香山のゆり園など年3回のバスレクも利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様はお金の管理を行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、いつでも電話を掛けることが出来る様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の写真や作品・季節にあった装飾を飾り温かい家庭的な雰囲気・空間作りを心がけております。また、温度や湿度を調整し、心地よい環境作りにも努めています。	明るく広い居間や食堂は、温度・湿度も適切に管理され、ゆったりとした寛ぎの空間となっている。壁には、季節の飾り付けや利用者の貼り絵、切り絵作品が程よく配置され、落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で会話を楽しんだり、テレビを観たり出来る様にリビング・フロア等を自由に使用して頂いています。それぞれが思い思いに過ごして頂ける様に努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から慣れ親しんだ物や馴染みの物を置いて頂き、安心して生活出来る様に配慮しています。	使い慣れた家具やテレビなどを持ち込み、家族の写真や手芸作品を思い思いに飾り付け、居心地の良い居室となっている。備え付けのクローゼットがあり、利用者の動線も確保され整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の出来る事・出来ない事を把握し、出来ない事は一緒に行い自立に向け支援しています。トイレや居室等には表札を付け分け易くしています。		